

(別紙様式4)

【職業実践専門課程認定後の公表様式】

平成30年8月31日※1
(前回公表年月日:平成29年8月11日)

職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地												
仙台医健・スポーツ&こども専門学校	平成19年3月29日	学校長 仁田 新一	〒984-0051 宮城県仙台市若林区新寺2丁目1-11 (電話) 022-292-2141												
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地												
学校法人滋慶文化学園	平成8年3月22日	理事長 覚野 博夫	〒812-0032 福岡県福岡市博多区石城町21-1 (電話) 092-263-6747												
分野	認定課程名	認定学科名	専門士	高度専門士											
医療	医療専門課程	理学療法科Ⅱ部		平成22年文部科学省告示第156号											
学科の目的	本校は、教育基本法に則り、学校教育法に従い並びに理学療法士養成施設指導要領の規程に基づき医療専門課程を設置し、社会に貢献できる理学療法士を育成する。														
認定年月日	平成26年3月31日														
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技								
4年	夜間	3,645時間	2,160時間	0時間	1,485時間	0時間	0時間								
生徒総定員	生徒実員	留学生数(生徒実員の)	専任教員数	兼任教員数	総教員数										
120人	68人	0人	6人	30人	36人										
学期制度	■1学期:4月1日～9月30日 ■2学期:10月1日～3月31日		成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 学期末に行う試験、実習の成果、履修状況、出席状況等を総合的に勘案											
長期休み	■学年始:4月1日 ■夏季:8月6日～8月16日 ■冬季:12月23日～1月6日 ■学年末:3月12日～4月10日		卒業・進級条件	出席率と学科試験により、当該学年において履修を認定されない学科目が1学科目も無く、必要な単位を取得している事。											
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 担任より学生及び保護者への連絡、三者面談や学生相談センター(SSC)の利用		課外活動	■課外活動の種類 (例)学生自治組織・ボランティア・学園祭等の実行委員会等 学友会 ■サークル活動: 有											
就職等の状況※2	■主な就職先・業界等(平成28年度卒業生) 病院、老人介護保険施設 ■就職指導内容 合同企業説明会(年2回開催)、就職出陣式、就職模擬面接会 ■卒業生数 : 16 人 ■就職希望者数 : 10 人 ■就職者数 : 10 人 ■就職率 : 100 % ■卒業者に占める就職者の割合 : 62.5 % ■その他 ・進学者数: 0人 (平成29年度卒業生に関する平成29年5月1日時点の情報)		主な学修成果(資格・検定等)※3	■国家資格・検定/その他・民間検定等 (平成28年度卒業生に関する平成29年5月1日時点の情報) <table border="1"><thead><tr><th>資格・検定名</th><th>種</th><th>受験者数</th><th>合格者数</th></tr></thead><tbody><tr><td>理学療法士</td><td>②</td><td>11人</td><td>10人</td></tr></tbody></table> ※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等) ■自由記述欄 (例)認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等				資格・検定名	種	受験者数	合格者数	理学療法士	②	11人	10人
資格・検定名	種	受験者数	合格者数												
理学療法士	②	11人	10人												
中途退学の現状	■中途退学者 6 名 平成29年4月1日時点において、在学者90名(平成29年4月1日入学者を含む) 平成30年3月31日時点において、在学者84名(平成30年3月31日卒業生を含む) ■中途退学の主な理由 進路変更 ■中退防止・中退者支援のための取組 個人面談、学費相談(分割納入や奨学金等)、保護者面談、三者面談、学生相談センター(SSC)、補習授業		■中退率 6.7 %												

<p>経済的支援制度</p>	<p>■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: <input checked="" type="radio"/>有 <input type="radio"/>無 滋慶奨学金 ■専門実践教育訓練給付: <input type="radio"/>給付対象 <input checked="" type="radio"/>非給付対象 ※給付対象の場合、前年度の給付実績者数について任意記載</p>
<p>第三者による学校評価</p>	<p>■民間の評価機関等から第三者評価: <input checked="" type="radio"/>有 <input type="radio"/>無 ※有の場合、例えば以下について任意記載 (評価団体、受審年月、評価結果又は評価結果を掲載したホームページURL)</p>
<p>当該学科のホームページURL</p>	<p>URL:http://www.sendai-iken.ac.jp</p>

(留意事項)

1. 公表年月日(※1)

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた告示日以降の日付を記入し、前回公表年月日は空欄としてください

2. 就職等の状況(※2)

「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業者の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科生第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

(1)「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について

①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。

②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者は含みません。

③「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。

※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

(2)「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について

①「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業者数のうち就職者総数の占める割合をいいます。

②「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う)。

(3)上記のほか、「就職者数(関連分野)」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進

3. 主な学修成果(※3)

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針
 保健・医療・介護予防・福祉・スポーツなどの幅広い分野で、患者様や社会から必要とされ信頼される理学療法士を養成するため、理学療法士養成所指導要領に基づいて教育課程を編成し、基礎科目の充実はもちろんのこと、臨床現場で即戦力となるための教育課程を編成しています。また、在校生による授業評価を年2回実施し兼任教員(非常勤講師)へ結果をフィードバックしています。更に、教育課程編成委員会においては、兼任教員(非常勤講師)以外の業界関係者からの意見もより詳細に教育内容に反映させることを目的としています。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

本校の教育課程編成委員会は理事会の基に設置され、委員会の適切な運営は理事長が担保することになっています。よって、学校が編成した教育課程案は、教育課程編成委員会に付議し、必要な場合は理事会・評議委員会においても決議されます。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

平成30年4月1日現在

名 前	所 属	任 期	種 別
寺澤 豊志	公益財団法人 宮城県柔道整復師会	平成29年4月1日～平成31年3月31日(2年)	①
岩井 晃	医療法人社団太長会 浅沼整形外科	平成29年4月1日～平成31年3月31日(2年)	③
渡邊 好孝	一般社団法人 宮城県理学療法士会	平成29年4月1日～平成31年3月31日(2年)	①
黒後 卓也	社団医療法人 康陽会 中嶋病院	平成29年4月1日～平成31年3月31日(2年)	③
桃井 真人	みちのくフィットネスクラブ協会	平成29年4月1日～平成31年3月31日(2年)	①
江澤 尚徳	グラン・スポールあすと長町	平成29年4月1日～平成31年3月31日(2年)	③
小林 茂樹	宮城県眼科医会	平成29年4月1日～平成31年3月31日(2年)	①
丸林 彩子	埼玉医科大学総合医療センター	平成29年4月1日～平成31年3月31日(2年)	③
吉田 孟史	学校法人 滋慶文化学園 常務理事	平成29年4月1日～平成31年3月31日(2年)	
仁田 新一	仙台医健・スポーツ&こども専門学校 学校長	平成29年4月1日～平成31年3月31日(2年)	
村山 洋樹	仙台医健・スポーツ&こども専門学校 事務局 長	平成29年4月1日～平成31年3月31日(2年)	
羽田 智大	仙台医健・スポーツ&こども専門学校 教務部 長	平成29年4月1日～平成31年3月31日(2年)	
川村 一之	仙台医健・スポーツ&こども専門学校 学科長	平成29年4月1日～平成31年3月31日(2年)	
藤村 真仁	仙台医健・スポーツ&こども専門学校 学科長	平成30年4月1日～平成31年3月31日(1年)	
東海林 智也	仙台医健・スポーツ&こども専門学校 学科長	平成30年4月1日～平成31年3月31日(1年)	
田所 雅弘	仙台医健・スポーツ&こども専門学校 学科主 任	平成30年4月1日～平成31年3月31日(1年)	

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)

②学会や学術機関等の有識者

③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4) 教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

年間開催数及び開催時期：年2回6月、3月開催。また、委員会欠席委員に対しては個別に意見聴取を行うなど、必要に応じて適宜文化会等を開催する場合があります。

(開催日時)

第1回 平成29年6月17日 13:30～15:30

第2回 平成30年3月31日 16:30～18:00

(5) 教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

臨床実習において、学校・実習施設・学生の三者が実習の到達目標を明確に共有できるよう、臨床実習指導者会議を通じて具体的な到達目標の再確認やさらに連携を取っていくことを明確にいたしました。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1) 実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

医療系養成所指導要領に基づいて学外実習を実施し、教育課程における位置付けや成績評価基準、意義についても明確にしています。また、実施要領・マニュアル等を整備し運用しています。

(2) 実習・演習等における企業等との連携内容

連携する医療施設より、実習生受け入れ承諾書を受領したうえで、現場の実習指導者(理学療法士)が実習指導を行っています。また、臨床実習指導要領に基づき履修規定を定め、実習の目的及び目標を明確にし評価基準を定めています。

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
臨床評価実習Ⅰ	臨床実習指導者のもと、理学療法業務を経験する。この実習は医療人としての接遇と的確な評価(知識・技術など)ができることを目標とする。	松田病院、南方ナーシングホーム翔裕園、大崎市民病院鳴子温泉分院、山崎病院、他26施設
臨床評価実習Ⅱ	臨床実習指導者のもと、理学療法業務を経験する。この実習は医療人としての接遇と的確な評価(知識・技術など)ができることを目標とする。	松田病院、南方ナーシングホーム翔裕園、大崎市民病院鳴子温泉分院、山崎病院、他26施設
臨床実習Ⅰ	今まで学んだ知識・技術を活かし、臨床実習指導者のもと、理学療法全般について経験し学習する。	みやぎ県南中核病院、ジュイールクラブ、北村山公立病院、筑波記念病院、虹ヶ丘病院、他13施設
臨床実習Ⅱ	今まで学んだ知識・技術を活かし、臨床実習指導者のもと、理学療法全般について経験し学習する、締めくくりの実習となる。	エバーグリーン・ツルガヤ、北村山公立病院、中嶋病院、ジュイールクラブ、他16施設

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

学園の定める教員研修規定において、教員の授業内容・方法及びクラス運営方法を改善し向上させるとともに、マネジメント能力を含む指導力の向上を研修目的と定めています。

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

「第30回教育研究大会、教育研修会」(連携企業等：一般社団法人全国リハビリテーション学校協会)

期間：平成29年8月31日(木)～9月1日(金) 対象：一般社団法人全国リハビリテーション学校協会加盟校専任教員

内容：特別講演4題、シンポジウム

「第52回日本理学療法学会大会」(連携企業等：公益社団法人日本理学療法士協会)

期間：平成29年10月20日(金)～21日(土) 対象：理学療法士その他

内容：基調講演1題、シンポジウム、教育セミナー、市民公開講座

「第52回日本理学療法士協会全国学術研修大会」(連携企業等：公益社団法人日本理学療法士協会)

期間：平成29年10月21日(土) 対象：理学療法士その他

内容：基調講演1題、特別講演2題、教育講演9題、他リレー講座、教育シンポジウム、ハンズオンセミナー、臨床ディスカッション

「第35回東北理学療法学会大会」(連携企業等：公益社団法人日本理学療法士協会東北ブロック協議会)

期間：平成29年11月18日(土)～19日(日) 対象：理学療法士

内容：基調講演1題、シンポジウム、教育セミナー、教育講演、他個人発表20題、市民公開講座

②指導力の修得・向上のための研修等

「新入職者FDマイクロレベル研修」(連携企業等:一般社団法人滋慶教育科学研究所)

期間:平成29年3月30日(木) 対象:平成29年度新入職者研修受講者で教務配属の教員及び教務事務

テーマ:学生変化に沿った教授法の基本(マインドとスキル)を習得する

内容:○FD研修の目的○滋慶学園グループのFD研修体系について○授業デザインとは○ティーチングの基本スキル○授業を関与する6つの要素から学習指導案へ

「FDマイクロレベルフォローアップ研修」(連携企業等:一般社団法人滋慶教育科学研究所)

期間:平成29年6月8日 対象:平成29年度新入職者FDマイクロレベル研修受講者で、教科授業を担当される教職員

テーマ:①FDマイクロレベル研修受講後の実際の授業の振り返りを行い、授業改善の工夫ができる②グループ(クラス)の成長を促すコーチングの基礎を学び、実践することができる③公開授業の実施と参加に向けて準備することができる

内容:○FDマイクロレベルフォローアップ研修の目的○授業リフレクション≪授業リフレクションの進め方≫(グループと個人の成長を促すコーチングスキルについて、コーチングスキルを用いた事例検討)○公開授業用までの取組みとその方法について

「教職員カウンセリング研修<一次研修・二次研修>」(連携企業等:一般社団法人滋慶教育科学研究所)

<一次研修>平成29年9月14日(木)~15日(金)<二次研修>平成29年9月15日(金) 対象:学生対応、保護者対応を行う教職員<一次研修>教職員カウンセリング研修未受講者<二次研修>教職員カウンセリング一次研修を終了(合格)した者(二次研修未受講者)

テーマ:滋慶学園グループの全教職員がカウンセリングマインドを身につけて、学生や保護者に対応できるようにスキル向上を目指し、資格を取得する

内容:<一次研修>○研修の全体像について○研修の目的(滋慶学園グループの教職員について、担任や教職員が理解しておくべき学生の支援と指導)○講義「学生対応に必要な青年期心理の基礎知識」○講義「カウンセリングマインドと学校におけるカウンセリング」○講義「カウンセリングマインドを基盤とした支援と指導」○講義「学生支援のデザイン」○一次研修試験○事例検討の進め方○事例検討(事例検討・事例を基にフレームワークを活用した問題解決シュミレーション)<二次研修>○研修の全体像について○研修の目的○事例検討の進め方○事例検討(事例を基にフレームワークを活用した問題解決シュミレーション)○グループワーク○二次研修試験

「FDマクロレベル研修」(連携企業等:一般社団法人滋慶教育科学研究所)

期間:平成29年10月12日(木) 対象:事務局長、教務部長(教務責任者)

テーマ:滋慶学園の3つのポリシーから、自校の課題を明確にし、教育戦略を考え第6期5ヶ年計画において滋慶学園の3つのポリシーと各校の3つのポリシーを根付かせる 内容:○FD研修の体系と構成について○これまでのFDマクロレベル研修の学びについて(事例報告:学生情報システムについて)○昨年の研修後の各校の取組みについて(事例発表、グループワーク)○滋慶学園の3つのポリシーについて○滋慶学園の3つのポリシーに対する取組みについて(3つのポリシーの作成ポイント~中教審の資料より~、3P検討委員会と3つのプロジェクトについて)○学校の3つのポリシー具現化への取組みについて(各校ごとにワーク)○振り返り 「マネジメン

ト研修」(連携企業等:一般社団法人滋慶教育科学研究所)

期間:平成29年10月24日(火) 対象:学校長/顧問/各校・各企業のマネージャークラス

テーマ:マネジメント教育について

内容:○浮舟総長講演○滋慶学園グループの歩み○パネルディスカッション/テーマ:「スペシャリストのマネジメント」

「フォローアップ研修」(連携企業等:一般社団法人滋慶教育科学研究所)

期間:平成29年11月28日(火) 対象:平成28年度新入職者研修受講者

テーマ:グループ理念・行動規範を振り返り、組織人としてのアイデンティティを確立する

内容:○グループ理念と期待する職員増○知識(コンプライアンスとリスクマネジメントについて、キャリア教育について、WEB広報の取組みについて)○マインド/マネジメント(「アクションラーニング」による問題発見・問題解決とリーダーシップ開発)○先輩職員より

「FDマイクロレベルレベルアップ研修」(連携企業等:一般社団法人滋慶教育科学研究所)

期間:平成30年1月24日(水) 対象:平成29年度FDマイクロレベル・フォローアップ研修受講者で、公開授業を実施した教員

テーマ:①FD研修のフローを振り返り、授業改善の工夫ができる②平成30年度公開授業実施者のトレーナーとして、授業計画のコーチングができる③アクティブラーニングの基礎を理解し、授業方法の一つとして実施できる

内容:○総長講和○FDマイクロレベル研修のフロー(FD研修におけるマインド、スキル・知識の確認、公開授業担当者としてこれだけは伝えたいこと)○クラス運営のセオリー~専門学校への担任とは~[目標を持って入学してきた学生を支えるためのルール作り]○アクティブラーニングの理論と演習(学びの本質に向うアクティブラーニングとは、反転授業のデザインと演習)

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等

「第31回教育研究大会・教育研修会」(連携企業等:一般社団法人全国リハビリテーション学校協会)

期間:平成30年8月24日(金)~25日(土) 対象:一般社団法人全国リハビリテーション学校協会加盟校専任教員

内容:大会長基調講演、教育講演4題、特別講演2題、指定発言3題、シンポジウム、リハビリテーション教育評価機構「評価認定」報告

「第36回東北理学利用法学会」(連携企業等:公益社団法人日本理学療法士協会東北ブロック協議会)

期間:平成30年11月3日(土)~4日(日) 対象:理学療法士

内容:大会長基調講演、特別講演、教育講演、セミナー、市民公開講座

② 指導力の修得・向上のための研修等

「FDセッションコーチ勉強会」(連携企業等:一般社団法人滋慶教育科学研究所)

期間:平成30年6月5日(火) 対象:①FDマイクロレベル・レベルアップ研修修了者で学科長クラスもしくは、学科長が推薦する方

②FDミドルレベル研修修了者③FDマクロレベル研修修了者

テーマ:学習促進型コーチングを用いた事例検討におけるコーチ役を育成する

内容:○研修の目的○学習促進型コーチング(セッションコーチの役割と留意点、デモセッション)○スクリプトシートに基づく演習と振り返り○まとめ

「FDマイクロレベルフォローアップ研修」(連携企業等:一般社団法人滋慶教育科学研究所)

期間:平成30年6月6日(水) 対象:平成30年度新入職者FDマイクロレベル研修受講者で、教科授業を担当される教職員

テーマ:①FDマイクロレベル研修受講後の実際の授業の振り返りを行い、授業改善の工夫ができる②グループ(クラス)の成長を

促すコーチングの基礎を学び、実践することができる③公開授業の実施と参加に向けて準備することができる

内容:○FDマイクロレベルフォローアップ研修の目的○授業リフレクション(授業リフレクションの進め方~グループと個人の成長を促すコーチングスキルについて~、コーチングスキルを用いた事例検討①、コーチングスキルを用いた事例検討②)○公開授業までの取組みとその方法について

「学科長対象FDマイクロレベル研修」(連携企業等:一般社団法人滋慶教育科学研究所)

期間:平成30年7月18日(水)~19日(木) 対象:学科長以上、またはそれに準ずる方

テーマ:①FDマイクロレベル研修の目的およびプログラム内容を理解し、スタッフの成長を促進することができる②「滋慶学園グループにおける授業のあり方」に沿って、授業改善のコーチングができる

内容:○FD研修の目的○滋慶学園グループのFD研修体系について○授業デザインとは○ティーチングの基本スキル○授業リフレクション○クラス運営のセオリー~専門学校での担任とは~○アクティブラーニングの理論と演習○公開授業までの取組みとその方法について

「教職員カウンセリング研修<一次研修・二次研修>」(連携企業等:一般社団法人滋慶教育科学研究所)

期間:<一次研修>平成30年10月2日(火)~3日(水)<二次研修>平成30年10月3日(水) 対象:学生対応、保護者対応

を行う教職員<一次研修>教職員カウンセリング研修未受講者<二次研修>教職員カウンセリング一次研修を終了(合格)した者(二次研修未受講者)

内容:未定

「マネジメント研修」(連携企業等:一般社団法人滋慶教育科学研究所)

期間:平成30年10月24日(水) 対象: 学校長/顧問/各校・各企業マネージャークラス

内容:未定

「フォローアップ研修」(連携企業等:一般社団法人滋慶教育科学研究所)

期間:平成30年11月29日(木) 対象:平成29年度新入職研修受講者

内容:未定

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

卒業生・保護者代表・近隣関係者・高等学校関係者並びに業界関係者により構成される学校関係者評価委員会は、この委員会が学校教職員が行った自己点検・自己評価の内容を審議・評価することを通じて、学校運営の改善に活かす事を基本方針とします。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	教員理念、目的及び育人人材像
(2) 学校運営	学校運営
(3) 教育活動	教育活動
(4) 学修成果	学修成果
(5) 学生支援	学生支援
(6) 教育環境	教育環境
(7) 学生の受入れ募集	学生の募集と受け入れ
(8) 財務	財務
(9) 法令等の遵守	法令等の遵守
(10) 社会貢献・地域貢献	社会貢献・地域貢献
(11) 国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

各委員より各項目について3段階評価で概ね「優れている」との評価を頂いた。また、「コミュニケーション能力の更なる向上」「国家試験の合格率アップ」「中途退学者の更なる低減」「基礎学力の向上」など多くのご意見も頂いた。運営会議、リーダー会議、学科会議、全体会等でこれらの意見を共有し、活用に向けた検討・環境整備に取り組んでいる。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

平成30年4月1日現在

名前	所属	任期	種別
佐藤 広人	理学療法科卒業生、みやぎ県南中核病院	平成29年4月1日～平成31年3月31日(2年)	卒業生
斎藤 剛	柔道整復科保護者	平成29年4月1日～平成31年3月31日(2年)	保護者
小笠原 朋之	聖ドミニコ学院中学校高等学校 校長	平成29年4月1日～平成31年3月31日(2年)	高等学校関係者
阿部 耕治	東八中央親交会 会長	平成29年4月1日～平成31年3月31日(2年)	地域関係者
寺澤 豊志	公益財団法人 宮城県柔道整復師会	平成29年4月1日～平成31年3月31日(2年)	業界関係者
渡邊 好孝	一般社団法人 宮城県理学療法士会	平成29年4月1日～平成31年3月31日(2年)	業界関係者
桃井 真人	みちのくフィットネスクラブ協会	平成29年4月1日～平成31年3月31日(2年)	業界関係者
小林 茂樹	宮城県眼科医会	平成29年4月1日～平成31年3月31日(2年)	業界関係者

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ) ・ 広報誌等の刊行物 ・ その他()) 公表時期:平成30年8月31日

URL:<http://www.sendai-iken.ac.jp>

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

事業計画の実行方針で提起された目標(中途退学者の低減、就職率100%、国家試験合格率100%等)を具現化するために、企業等からヒヤリングを行い、業界の動向を踏まえた実行計画を作成している。企業等への具体的な情報提供方法としては、学校関係者評価委員会や教育課程編成委員会、業界関係者である非常勤講師との講師会、キャリアセンタースタッフによる企業訪問等あらゆる機会を活用して、積極的に情報の提供を行っています。また、臨床評価実習や臨床実習においては、実習指導者会議を開催し積極的な意見交換会を行っています。更に、実習中は実習先に教員が訪問し学生の実習状況の確認指導も行っていきます。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	建学の理念、コンセプト、学校長・所在地・連絡先・沿革、その他諸活動に関する計画
(2) 各学科等の教育	入学者に対する受入方針・定員、カリキュラム、卒業進級判定基準、資格、卒業後の
(3) 教職員	教職員数、教員の実績、学校組織図
(4) キャリア教育・実践的職業教育	キャリア教育への取組み状況、就職指導マニュアル
(5) 様々な教育活動・教育環境	校舎設備紹介、課外活動
(6) 学生の生活支援	学生支援への取組み、健康管理
(7) 学生納付金・修学支援	学費一覧・諸費用について、奨学金
(8) 学校の財務	財務資料
(9) 学校評価	学校関係者評価委員会
(10) 国際連携の状況	海外実学研修、留学生支援・受入状況
(11) その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

URL:<http://www.sendai-iken.ac.jp>

授業科目等の概要

(医療専門課程理学療法科Ⅱ部) 平成30年度																
分類			授業科目名	授業科目概要	配当 年次・ 学期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企 業 等 と の 連 携	
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任		
○			心理学	人間の心理における心理・社会・生物学的要因の相互作用について学び、その病因についても考える。	1前	30	2	○			○			○		
○			教育学	教育学の基本的な考えを学び、「学ぶ」「教える」といった情緒領域に必要な知識について学ぶ。	1前	30	2	○			○				○	
○			社会福祉原論	社会福祉の歴史や概念などを理解し、現代社会の福祉関連問題について広く学ぶ。	1後	30	2	○			○				○	
○			障害者福祉論	障害者福祉の歴史や概念（ノーマライゼーションやICFなど）を理解し、基本的な知識を学ぶ。	3後	30	2	○			○				○	
○			物理学	物質とその間に働く相互作用を理解すること（力学的理解）で、人体の各関節の動きを理解する。	1前	30	2	○			○				○	
○			生物学	生命の基本的知識を習得し、併せて、解剖学・生理学・運動学学習の基本知識とする。	1前	30	2	○			○				○	
○			統計学	卒業研究や卒後の疫学的研究に役立てるため、集めたデータの処理・分析や解析の統計法を学ぶ。	3後	30	2	○			○				○	
○			保健科学	人間の運動にかかわる身体の機能と構造について学習する。	1前	60	2	△			○	○	○		○	
○			英語 I	グローバルな感性を養う。そのためのコミュニケーションに必要な簡単な英会話を学ぶ。	1前	30	2	○			○				○	

授業科目等の概要

(医療専門課程理学療法科Ⅱ部) 平成30年度																
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携	
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任		
○			医学英語	医学の専門用語を習得し、リハビリテーションに関する文献を読みこなす能力を養う。	3後	30	2	○			○			○		
○			解剖学Ⅰ	人体の筋骨格系の構造について学ぶ。また人体模型を使用したり、ペアになって触診も行う。	1前	60	2	○			○				○	
○			解剖学Ⅱ	人体の神経系感覚器系の構造について学ぶ。	1後	30	1	○			○				○	
○			解剖学実習	解剖学で学んだ知識をもとに、標本に実際に触れながら、具体的な人体構造を学習する。	1後	90	2			○	○				○	
○			生理学Ⅰ	理学療法士に必要な人体の機能(筋・神経、呼吸・循環、消化・吸収など)について学ぶ。	1前	60	2	○			○				○	
○			生理学Ⅱ	運動や動作時の呼吸・循環機能について理解し、またその変化についても学ぶ。	1後	30	1	○			○				○	
○			生理学実習	生理学で学んだ知識をもとに、グループで実習を行いながら、人体生理学の理解を深める。	1後	45	1			○	○				○	
○			運動学	人体の各関節の運動について学ぶ。また歩行や日常生活動作の動作分析についても学ぶ。	1後	60	2	○			○				○	
○			運動学実習	歩行などの動作分析についても、実技を交えながら理解を深める。	2前	60	2			○	○				○	

授業科目等の概要

(医療専門課程理学療法科Ⅱ部) 平成30年度																
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携	
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任		
○			人間発達学	人間発達の各段階に適切に対応できるよう、出生から成人に至るまでの心身の成長過程を学ぶ。	1後	30	1	○			○			○		
○			医学概論	医学とは何か。その歴史や体系などについて学ぶ。	1後	30	1	○			○				○	
○			病理学	疾病を学ぶにあたり、組織・細胞などの形態学的な病変について学習する。	1後	30	1	○			○				○	
○			障害論	基礎的な社会福祉や障害、また広い意味でノーマライゼーションなどの学習をする。	2後	30	1	○			○				○	
○			臨床心理学	身体的な疾病ばかりでなく、心の病についても理解を深め、心身ともに援助するための知識を学ぶ。	2後	60	2	○			○				○	
○			内科学	理学療法士に必要な内科的疾患の病態・診断・治療について学ぶ。	3通	60	2	○			○				○	
○			整形外科学	理学療法士に必要な整形外科的疾患の病態・診断・治療について学ぶ。	2通	60	2	○			○				○	
○			神経内科学	理学療法士に必要な神経内科的疾患の病態・診断・治療について学ぶ。	2通	60	2	○			○				○	
○			精神医学	理学療法士に必要な精神疾患の病態・診断・治療について学ぶ。	3後	30	1	○			○				○	

授業科目等の概要

(医療専門課程理学療法科Ⅱ部) 平成30年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			小児科学	理学療法士に必要な小児疾患の病態・診断・治療について学ぶ。	3前	30	1	○			○			○	
○			老年学	高齢者の特性や、高齢者に特徴的な疾患の病態・診断・治療および予防について学ぶ。	3後	30	1	○			○			○	
○			救急医学	基本的な救急医学・治療について学び、また様々な疾病の病態についても学ぶ。	3前	30	1	○			○			○	
○			リハビリテーション医学	リハビリテーション医学の歴史や対決について学び、また障害の診断・治療についても学ぶ。	1後	30	1	○			○			○	
○			リハビリテーション概論	リハビリテーションの歴史や概念など理解し、また生涯や保健医療制度についても学ぶ。	1前	30	1	○			○			○	
○			社会保障制度論	社会保障の体系について学び、医療保険などの理解を深める。	4前	30	1	○			○			○	
○			理学療法概論Ⅰ	理学療法の歴史・定義などについて学び、関連法規や業務内容についても知り、職業理解を深める。	1前	30	1	○			○			○	
○			理学療法概論Ⅱ	理学療法士を取り巻く環境や現状、今後の展望について学習する。	1後	30	1	○			○			○	
○			病態運動学	運動学で学んだ人体構造の各関節の運動をもとに、その病態像について学ぶ。	3前	60	2	○			○			○	

授業科目等の概要

(医療専門課程理学療法科Ⅱ部) 平成30年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			理学療法教育・職場管理法	医療・福祉現場における教育について、カルテやリハビリテーション実施計画書作成などの業務管理についても学ぶ。	4前	30	1	○			○			○	
○			卒業研究	学習の集大成として実習での症例検討、実験及び疫学的調査研究により理学療法の理解を深める。	4後	120	4	○			○		○		
○			理学療法評価学Ⅰ	理学療法評価の考え方やその流れについて学ぶ。また、形態測定や可動域測定など評価技術についても学習する。	1前	60	2	○			○			○	
○			理学療法評価学Ⅱ	1年次に学習した評価技術を復習し、さらにADLテストや呼吸・循環機能検査なども学び習得する。	2通	60	2	○			○		○		
○			理学療法評価学実習	理学療法評価学で学習したものを、実際の相手を交えて実習することで深い理解に繋げる。	2後	45	1			○	○		○		
○			運動療法学Ⅰ	運動療法の概念について学び、また運動器の構造・機能の回復、基本的な運動療法技術を習得する。	2前	30	1	○			○		○		
○			運動療法学実習Ⅰ	運動療法学Ⅰで学んだ知識を、実際の相手を交えて実習することで運動療法の深い理解に繋げる。	2前	45	1			○	○		○		
○			運動療法学Ⅱ	各種運動療法技術について学び、実技を通じて習得する。さまざまな疾患に適応する技術も学ぶ。	2後	30	1	○			○		○		
○			運動療法学実習Ⅱ	運動療法学Ⅱで学んだ知識を、実際の相手を交えて実習することで運動療法の深い理解に繋げる。	2後	45	1			○	○		○		

授業科目等の概要

(医療専門課程理学療法科Ⅱ部) 平成30年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			物理療法学	物理療法の概念や、各種物理療法機器の適応・禁忌を学び、機器の使用方法を習得する。	2後	30	1	○			○			○	
○			物理療法学実習	物理療法で学んだ知識を、実際の相手を交えて実習することで物理療法の深い理解に繋げる。	2後	45	1			○	○				○
○			生活環境学	保健・福祉の概念を知り、関連法規についても学ぶ。社会的な生活環境の理解を深める。	2前	30	1	○			○			○	
○			日常生活活動学	日常生活活動の概念や使用機器について学ぶ。また、その評価・治療を習得する。	2前	30	1	○			○			○	
○			日常生活活動学実習	日常生活活動学で学んだ知識を、実際の相手を交えて実習することで日常生活活動学の深い理解に繋げる。	2後	45	1			○	○			○	
○			義肢装具学	義肢・装具の構造と機能、各疾患の適応について学ぶ。また、実際に装着をして理解を深める。	2前	30	1	○			○			○	
○			義肢装具学実習	義肢装具学で学んだ知識を、実際の相手を交えて実習することで義肢装具学の深い理解に繋げる。	2後	90	2			○	○				○
○			理学療法技術論Ⅰ 整形外科疾患	整形外科疾患に対する理学療法評価・治療について学ぶ。グループワークを通じて、症例検討も行う。	3前	60	2	○			○			○	
○			理学療法技術論Ⅱ 中枢神経疾患	中枢神経疾患に対する理学療法評価・治療について学ぶ。グループワークを通じて、症例検討も行う。	3後	60	2	○			○			○	

授業科目等の概要

(医療専門課程理学療法科Ⅱ部) 平成30年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			理学療法技術論Ⅲ呼吸・循環疾患	呼吸・循環疾患に対する理学療法評価・治療について学ぶ。小児期疾患の症例検討も行う。	3前	30	1	○			○			○	
○			理学療法技術論Ⅳ小児期疾患	小児期疾患に対する理学療法評価・治療について学ぶ。小児期疾患の症例検討も行う。	3前	30	1	○			○			○	
○			理学療法技術論Ⅴ難病・スポーツ障害	難病・スポーツ障害に対する理学療法評価・治療について学ぶ。症例検討も行う。	3後	30	1	○			○		○		
○			理学療法演習	理学療法についての課題を設定し、グループごとに討議、発表を行い学習する。	3通	60	2		○		○		○		
○			地域理学療法学	地域理学療法の意義・現状について学ぶ。具体的な事例をもとに、その流れについても理解する。	3後	30	1	○			○			○	
○			地域理学療法学実習	地域理学療法学の知識をもとに、実際の相手を対象にしながら、市街地に出向き学習する。	4前	45	1			○	○		○		
○			ケアマネジメント論	高齢化社会である今日、ケアマネジメントとは何か、なぜ必要とされているのかを主に学ぶ。	3後	30	1	○			○			○	
○			地域福祉論	地域福祉の意義・現状について学ぶ。障害があっても、年齢を重ねても地域で暮らせる工夫を学習する。	3後	30	1	○			○			○	
○			臨床評価実習Ⅰ	臨床実習指導者のもと、理学療法業務を経験する。この実習は医療人としての接遇と的確な評価(知識・技術など)ができることを目標にする。	3後	135	3			○	○		○	○	

授業科目等の概要

(医療専門課程理学療法科Ⅱ部) 平成30年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			臨床評価実習Ⅱ	臨床実習指導者のもと、理学療法業務を経験する。この実習は医療人としての接遇と的確な評価（知識・技術など）ができることを目標にする。	3後	135	3			○	○		○	○	
○			臨床実習Ⅰ	今まで学んだ知識・技術を生かし、臨床実習指導者のもと、理学療法業務全般について経験し学習する。	4前	315	7			○	○		○	○	
○			臨床実習Ⅱ	今まで学んだ知識・技術を生かし、臨床実習指導者のもと、理学療法業務全般について経験し学習する。締めくくりの実習となる。	4後	315	7			○	○		○	○	
○			作業療法概論	作業療法の歴史・定義などについて学び、関連法規や業務内容についても知り、職業理解を深める。	3後	30	1	○			○			○	
	○		理学療法特論	理学療法における徒手理学療法について、その体系を理解し理論から技術までを学ぶ。	4前	30	1	○		△				○	
	○		コミュニケーション論	社会人として基本となるコミュニケーション技術を理論的に習得し、将来の業務に役立てる。	1前	30	1	○			○		○		
	○		情報処理学Ⅰ	日常生活に必須となった、パソコンの基本操作とワード・エクセル及びインターネット利用の初歩を学ぶ。	2前	30	1	○			○			○	
合計				73科目		3,645単位時間(115単位)									

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
4年間で3,645時間(115単位)を修得した者で、卒業認定された者	1 学年の学期区分	前期・後期
	1 学期の授業期間	23週

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。